

科目「現代文A」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	現代文A	単位数	3単位	学年・学科	3学年全学科
使用教科書	『新編現代文A』（第一学習社）				
副教材等	『国語必携 ライトパーフェクト演習』（尚文出版）、総合文字力（尚文出版）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	① 近代以降の様々な文章、特に随筆・小説などを読み、我が国の言語文化に対する理解を深める。 ② 生涯にわたって読書に親しむ態度を育てること、多様な文章や考えに触れることをねらいとする。 ③ 国語の向上を図る態度や、言語文化の継承と創造の担い手となる資質を涵養する。
学習の到達目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、国語の能力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
取得可能な資格	特記なし。但し、日本漢字能力検定2級以上取得をした者には増加単位を与える。
授業を受ける心構え	授業には意欲的に取り組み、始業5分前には教科書やノートの準備をし、授業を「聞く」姿勢を整えておく。また、提出物は必ず期限を守って出す。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	・随想「なぜ、“コロンブスの卵”を描くのか」（福田哲夫） ・小説「相棒」（内海隆一郎） ・評論「数え方で磨く日本語」（飯田朝子）	・随想を読み、筆者の考えに触れることで、発想の面白さに気づく。 ・小説に描かれた世界に触れることで、豊かな情操を養う。 ・評論文を読み、筆者の考えを理解し、自身の生活について考える。	・一斉授業(座学) ・読書案内	中間考查 学期末考查 提出物
9 10 11 12	・評論「コミュニケーションの文化」（平田オリザ） ・随想「出島のチューリップ」（吉田直哉） ・小説「山月記」（中島敦）	・評論文の特徴を知る。本文やまわりの具体例を通してコミュニケーションの在り方について考える。 ・随想を読み、筆者の思いを理解し、自らの生活について考える。 ・山月記を読んで、人間誰もが抱える内面の苦悩に触れ、自身の生き方について考える。	・一斉授業(座学) ・読書案内	中間考查 学期末考查 提出物
1 2 3	・小説「山月記」（川上弘美）		・一斉授業(座学) ・読書案内	学年末考查 提出物

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
・近代以降の様々な文章や文体に触れ、我が国の言語文化に対する理解を深め、読書に親しむ。 【定期考查・提出物・出席状況・授業態度】	筆者の考えに対する自分の思考を深め、授業での学習事項を基本として、自らの考えや意見を表現する創造的な能力を身に付けている。 【定期考查・感想文（初発の感想を含む）・授業態度】	基礎的・基本的な「文章を読むための要点」を身に付け、筆者の主張や文章の要旨を的確に読み取る。 【定期考查・授業態度】	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字などを理解し、国語学習の基本的知識を身に付けている。 【定期考查・提出物】

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查(平常)	25	10	15	20	70	学習到達度の確認
提出物等	5	5		10	20	予習・復習の確認
授業態度・発表	2		5		7	取り組む姿勢
出席状況	3				3	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「世界史A」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	地理歴史（世界史A）	単位数	2単位	学年・学科	3学年 全学科
使用教科書	世界史A（東京書籍）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	現代世界の基本的な構造とその変動について歴史的観点から把握する。
学習の到達目標	歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら現代の諸課題を歴史的観点から考察する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	序章 古代文明の成立 1章 ユーラシアの諸地域世界 2章 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ 3章 大西洋世界の変容とその波及	・人類の誕生から古代文明の成立までの背景や流れ・人類や文明の区分を理解する。 ・ユーラシア一帯の地域ごとの歴史の流れや国家成立の背景を理解する。 ・アジア諸帝国の繁栄と衰退、十字軍派遣以降のヨーロッパの繁栄と社会への影響を理解する。 ・市民革命などの影響と、欧米の海外進出やそれに伴うオスマン帝国の衰退について理解する。	・一斉授業(座学) ・新聞・ICT等による資料・画像の活用	中間考查 学期末考查
8 10 11 12	4章 産業社会の拡大と成熟 5章 アジア諸国の変貌と日本 6章 帝国と民族の時代 7章 二つの世界大戦の時代	・ウィーン体制後の自由主義とナショナリズムの展開を理解し、帝国主義の展開による世界への影響を理解する。 ・二つの大戦の原因と経過、結果を理解する。	・一斉授業(座学) ・新聞・ICT等による資料・画像の活用	中間考查 学期末考查
1 2 3	8章 冷戦と民族独立の時代 9章 グローバル化のなかの危機 終章 21世紀に生きる	・冷戦体制の成立と第二次大戦後のアジア・アフリカの民族独立や紛争について理解し、冷戦後のグローバル化や地域統合の動きを理解する。 ・冷戦後の世界でおこった地域紛争の歴史的背景について探求し、今後どうするかを考察する。	・一斉授業(座学) ・新聞・ICT等による資料・画像の活用	学年末考查

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め、歴史上の諸課題について問題意識を持って意欲的に追求しているか。 【授業態度, 提出物, 出席状況】	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界的視野に立って多面的・多角的に考察しているか。 【考查, 授業態度, 提出物】	近現代史を中心とする世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。 【提出物】	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な知識を身に付けているか。 【考查】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查(平常)	10	20		40	70	学習到達度の確認
提出物等	10	5	5		20	予習・復習の確認
授業態度・発表	3	2			5	取り組む姿勢
出席状況	5				5	授業参加意欲
競技会・資格取得					0	目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「数学A」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

科目	数学A	単位数	2単位	学科・学年	3年数学選択者
使用教科書	改訂版 新 高校の数学A (数研出版)				
副教材等	改訂版 ポイントノート数学A (数研出版)				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	筋道を立てて論理的に考える習慣を身に付け、情報化社会の中でたくましく活躍していこうとする態度が育てられ、数学の学習の必要性が認識できる。
学習の到達目標	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
取得できる資格	なし
授業を受ける心構え	就職・進学に関わらず、現代社会を生きていくのに必要な知識・思考力等を身に付けるための基本的な科目であることを念頭に置き、積極的に授業に取り組む。

2. 計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	1章 場合の数と確率 順列・組合せ 確率	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	教科書 問題演習	定期考査
9 10 11 12	2章 図形の性質 平面図形 空間図形	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	教科書 問題演習	定期考査
1 2 3	3章 整数の性質	整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。	教科書 問題演習	定期考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は方法	数学的な見方や考え方 【 】は方法	数学的な技能 【 】は方法	知識・理解 【 】は方法
場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 【授業態度、発表、ノート等】	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 【発表、ノート、提出物等】	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 【発表、ノート、提出物、平常・定期考査等】	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 【発表、ノート、提出物、平常・定期考査等】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解	項目間の比率 (%)	その他
定期考査・平常考査	5	20	20	25	70	学習度の確認
提出物等	2	4	2	2	10	予習・復習の確認
授業態度・発表	3	6	3	3	15	取り組む姿勢
出席状況	5	0	0	0	5	欠席理由の明確化
資格・検定試験					0	目標到達度評価
					100%	

科目「化学基礎」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	理科(化学基礎)	単位数	2単位	学年・学科	3年農業科、園芸科、畜産科学科、生活文化科
使用教科書	第一学習社 「高等学校 改訂 新化学基礎」(化基322)				
副教材等	第一学習社 「ネオパネルノート 改訂 化学基礎」				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	身近な事象・現象に関する観察・実験を通して、化学の基本的な概念を学習する。
学習の到達目標	1. 化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 2. 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解できる。 3. 原子量の概念、物質量の定義、濃度の定義を理解できる。 4. 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに日常生活や社会と関連付けて考察できる
取得可能な資格	特記事項なし
授業を受ける心構え	授業開始のチャイムがなるまでに教科書等を机に出し、席に座って先生を待つ。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	化学と人間生活 物質とその構成要素	・物質の利用、身近な物質、物質の状態変化を理解する。 ・混合物と純物質、成分元素を理解する。 ・原子の構造、電子配置等を理解する	・一斉授業(座学) ・実験(分割)	プリント・問題集 点検 中間考査 学期末考査
9 10 11 12	物質と化学結合 物質量と濃度 化学反応と量的関係 酸と塩基の反応	・イオンや分子の存在や関連する化学結合等を理解する。 ・原子量、分子量、式量の扱い方と物質の量を表す方法、濃度を表す方法を理解する。 ・化学反応方式の係数比＝物質質量比＝粒子数比を理解する。 ・酸、塩基の基本的な定義を理解し、中和の関係式を理解する。	・一斉授業(座学) ・実験(分割)	プリント・問題集 点検 中間考査 学期末考査
1 2 3	酸化還元反応 電池と電気分解	・酸化、還元の基本的な定義を理解する。 ・ボルタ電池、ダニエル電池の仕組みや水溶液の電気分解をりかいする。	・一斉授業(座学) ・実験(分割)	プリント・問題集 点検 学期末考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
物質の成り立ちや物質の変化に関連した学習課題に関心を持ち、科学的な態度で観察、実験、調査などを行い、意欲的に探究しようとする。 【提出物・テスト・発問・授業態度・出席】	物質の成り立ちや物質の変化に関連した学習課題に対し、観察・実験・調査などを計画・実施し、得られた結果に基づいて社会などの関連も踏まえて総合的に考察できる。 【提出物・テスト・発問】	観察、実験、調査などを通して物質の成り立ちや物質の変化に関連した学習課題についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。 【提出物・テスト・発問】	観察、実験、調査などを通して物質の成り立ちや物質の変化に関連した学習課題についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。 【提出物・テスト・発問】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)		15		35	50	学習到達度の確認
提出物等	20			10	30	復習状況等の確認
授業態度・発表	5		5		10	取り組み姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「 体育 」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	体育	単位数	3単位	学年・学科	全学科3学年
使用教科書	なし				
副教材等	アクティブスポーツ2021				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	体を動かし、爽快感、達成感、他者との連帯感、楽しさや喜びを味わい、体力向上、ストレスの発散、生活習慣病予防等の効果をもたらし、心身両面の健康の保持増進を促す。
学習の到達目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	欠席や忘れ物をすることなく、主体的に授業に出席する。公正な態度で、協力的に動き、行動に責任を持つ。水泳および長距離走は完全実施（補習がある）。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	体づくり運動 集団行動、ラジオ体操 水泳・球技選択	○体を動かす、心と体をほぐす、動きを高める ○集団行動を学ぶ、ラジオ体操を学ぶ ○4泳法に挑戦するとともに、命について学ぶ ○仲間との協力とともに技能を高める	一斉・グループ 個別	ラジオ体操 水泳 球技 補習(水泳)
9 10 11 12	球技選択 体育理論 陸上競技(長距離走) 球技選択	○仲間との協力とともに技能を高める。 ○公正、協力、責任、参画の態度を学ぶ。 ○運動の持続力、集中力を高め、タイムに挑戦する。	一斉・グループ 個別	球技 陸上競技 補習(長距離) ロードレース
1 2 3	体づくり運動 球技選択 体育理論	○体力の向上に重点を置き、体力を高めるための運動、実生活に生かせる運動を行う。 ○活動計画を立て、実践する。	一斉・グループ 個別	球技 陸上競技

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康安全を確保して主体的に取り組もうとする。 【授業態度、出席状況】	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間との課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。 【発表、ワークシートレポート】	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。 【技能テスト・記録測定】	選択した運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法や豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。 【理解度チェック、発表等】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
テスト・測定・提出	10	20	30	10	70	
授業態度・発表	10	5		5	20	
出席状況	10				10	
					100%	

科目「英語表現Ⅰ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	英語表現Ⅰ	単位数	2	学年・学科	3年農業科・園芸科・畜産科学科・食品化学科・生活文化科
使用教科書	SELECT English Expression New Edition（三省堂）				
副教材等	SELECT English Expression WORKBOOK（三省堂）、コーパス1800（東京書籍）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	英語の構造に気をつけて、文章を書いたり自己表現を行ったりする。
学習の到達目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。
取得可能な資格	実用英語技能検定
授業を受ける心構え	授業に積極的に参加し、教材プリントやノートをきちんと仕上げ、提出する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	言語材料・言語活動	その他・考查
4 5	Lesson 1 自己紹介 Lesson 2 宇宙で食事 Lesson 3 世界へ羽ばたけ Lesson 4 エーゲ海への旅	・あいさつなど自己紹介をする表現 ・世界の様々な食文化を知る ・世界で活躍するスポーツ選手を知る ・旅行をテーマに学習する	・現在形 ・過去形 ・進行形 ・未来表現	1学期中間考查
6 7	Lesson 5 アイドル Lesson 6 祭りだ！ Lesson 7 未来のエネルギー Lesson 8 世界平和	・アイドルをテーマに学習する ・伝統文化やサブカルチャーなどの日本文化 ・新エネルギーと環境問題について ・世界平和をテーマに学習する	・現在完了形 ・現在完了形 ・助動詞 ・助動詞	1学期期末考查
9 10	Lesson 9 美ら海水族館 Lesson 10 未来を拓く Lesson 11 はやぶさ2 Lesson12 不思議な絵	・人気動物をテーマに学習する ・様々な人の生き方を知り自分の生き方を考える ・自然科学をテーマに学習する ・様々な分野の芸術作品をテーマに学習する	・不定詞Ⅰ ・不定詞 ・動名詞 ・受動態	2学期中間考查
11 12	Lesson 13 ヒエログリフ Lesson 14 私たちの街 Lesson15 書道甲子園	・様々な形で用いられる言語をテーマに学習する ・その土地特有のご当地ものをテーマに学習する ・活躍する高校生をテーマに学習する	・分詞 ・関係代名詞 ・関係副詞	2学期期末考查
1	Lesson16 どれが一番？	・著名な建築物や地理・自然を比較しながら比較級や最上級を学習する	・比較	学年末考查

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
・授業中に積極的に質問したり、答えたりしているか。 ・提出物などきちんと提出しているか。 【授業中の態度】 【提出物】 【出席状況】	・自分の考えや意見を基本的な英語を使って表現できるか。 【定期考查】 【プリント・ノート】 【提出物】 【授業中の態度】	・Speaking、Writingの基本的な技能の習得ができたか。 【定期考查】 【プリント・ノート】 【提出物】 【授業中の態度】	・基本的な単語・例文を暗記でき、簡単な内容の英文を書けるか。 【定期考查】 【プリント・ノート】 【提出物】 【授業中の態度】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查(平常)	10	20	20	20	70	学習態度の確認
提出物等	10	0	0	0	10	予習・復習の確認
授業態度・発表	10	0	0	0	10	取り組む姿勢
出席状況	10	0	0	0	10	欠席理由の明確化
競技会・資格取得	プラスα	プラスα	プラスα	プラスα	プラスα	目標到達度評価
					100%	

科目「課題研究・大家畜」シバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農 業	単位数	2 単位	学年・学科	3 学年	3 学科
使用教科書						
副教材等	畜産（実教）					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	課題に沿って、基礎・基本から専門的な技術を学び、応用させる。
学習の到達目標	目標達成のための専門的な知識や技術を身につける。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	命の尊さや、家畜生産物について、実習を通して体験し、学ぶ姿勢をもつ。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	課題項目の設定	自らの課題の設定	観察実習	
5	題材に沿った年間計画	年間計画の設定		
6	家畜生産物の利用	家畜生産物について理解する		
7	生乳を利用・応用・製造	生乳を利用した商品開発		
9	乳加工 1	乳製品・加工を理解し、製造する	観察実習	
10	乳加工 2	生乳の 6 次産業化の可能性を探る	卒業論文	
11	肉の特徴	肉の部位と性質と理解する		
12	まとめ	まとめ		
1	年間のまとめ	まとめ	卒業論文	
2				
3				

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
牛の生理生態に関心を持ち、調べ学習に対して積極的に参加し理解を深める。 【授業態度、出席状況】	学ぶ目的と学習分野について考察する。 【レポート、授業態度】	調べ学習の目的に応じた資料を適切に判断して活用出来る。 【授業態度・発表】	牛の特性に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、産業としての価値を理解する。 【レポート】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)						
提出物等	1 5	1 0			2 5	
授業態度・発表	2 0	1 0	1 5	1 5	6 0	
出席状況	1 0	5			1 5	
競技会・資格取得						
					1 0 0 %	

科目「課題研究 動物産業Ⅰ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農業	単位数	2単位	学年・学科	3学年 各学科
使用教科書	農業と環境（農文協）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	課題解決のための自発的・創造的な態度を育てる
学習の到達目標	課題解決が1つでも解決できるようにする
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	実験・実習を体験する

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	課題研究の意義	プロジェクト学習を理解しテーマを設定する	・一斉授業(座学) ・調べ学習 および実習	
5	犬の飼養管理	犬の特性を学ぶ		
6	犬の飼養管理	犬の品種や活用について知る		
7	鶏の飼養管理	幼びなについて学ぶ		
9	鶏の飼養管理	中・大びなについて学ぶ	・調べ学習 および実習	
10	鶏の飼養管理	採卵鶏について学ぶ		
11	鶏の飼養管理	繁殖とふ化について学ぶ		
12	1年間のまとめ	学習の成果をまとめる		
1	まとめ及び発表	プレゼンテーションソフトを用いて発表する	・一斉授業(発表)	
2				
3				

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
家きんおよび伴侶動物に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、出席状況】	家きんおよび伴侶動物に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、動物に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【考査、レポート、授業態度】	家きんおよび伴侶動物の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、それらに関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【授業態度・発表】	家きんおよび伴侶動物の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、それらの意義や役割を理解している。 【考査、レポート】

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)						学習到達度の確認
提出物等	20	10	5	10	45	予習・復習の確認
授業態度・発表	10	5	15	5	35	取り組む姿勢
出席状況	15	5			20	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					100%	

教 科	農 業	単 位 数	2 単 位	学科・学年	各学科・3 学年
使用教科書等	生物活用（実教）				
副教材等	馬学（上）（下）・畜産（実教）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	馬と触れ合いながら、知識・技術を身につける
学習の到達目標	馬の生理・生体についての正しい知識・技術の習得
取得できる資格	なし
授業を受ける心構え	馬の特性を理解し、自ら授業を計画・展開していく

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	馬の取扱いの基礎	馬の特徴を理解させる。	一斉授業	
5	馬の管理	馬の厩舎作業を理解させる。	実習	
6		馬の手入れ方法を理解させる。		
7	馬の調教と乗馬	乗馬の基礎を理解させる。	乗馬実習	
9	馬の家畜化と歴史	馬の歴史等を理解させる。	一斉授業	
10	馬の品種と分類	馬の品種等を理解させる。		
11	馬の外貌	馬の部位名等を理解させる。	DVD 学習	
12		馬の個体特徴等を理解させる。	一斉授業	
1	まとめと卒業論文の作成	年間のまとめ		卒業論文の提出

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技 能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法	備 考
馬に関する特性や生態・習性に関心を持ち、意欲的に実習にも参加するとともに、向上心があり知識・技術について身に付けている。 【授業態度、出席状況】	馬に関する目的と学び方を様々な角度から主体的に考察し、適切に判断し身に付けている 【レポート、授業態度】	馬に関する調べ学習の目的に応じた資料を適切に判断して活用している。 【授業態度、実習】	馬に関する特性について基礎的・基本的な知識を馬の産業としての価値を理解している。 【レポート】	

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲 ・態度	思考・判断 ・表現	技能	知識・理解	項目間の 比率 (%)	その他
定期考査						学習到達度の確認
提出物等	20	20			40	予習・復習の確認
授業態度・発表	10	10	20	10	50	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
					100%	

科目「農業情報処理」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農業	単位数	1 単位	学年・学科	3 学年 畜産科学科
使用教科書	農業情報処理 実教出版株式会社発行				
副教材等	なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業に関する情報の整理や、計算、発表スライドを作るなどを通して情報処理に関する知識と技術を習得させていく。また、資格取得の一環として「ワープロ実務検定試験」、「情報処理検定試験」、「プレゼンテーション作成検定試験」などの合格を目指す。
学習の到達目標	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、知識と技術を習得させるとともに、農業情報及び環境情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。
取得可能な資格	各種パソコン関係検定
授業を受ける心構え	積極的に授業に参加し、忘れ物をせず、きちんとした身だしなみで授業を受ける。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	農業情報及び 環境情報の活用 農業学習と情報活用	農業情報及び環境情報を、ワープロソフト(ワード)、プレゼンテーションソフト(パワーポイント)を用いて処理する技術と知識を学ぶ。文書作成ソフトを活用し、調査した内容をまとめる。	・演習(座学)	学期末考査
9 10 11 12	農業情報及び 環境情報の活用 農業学習と情報活用	農業情報及び環境情報を、表計算ソフトを用いて処理する技術と知識を学ぶ。専攻学習と連携しプロジェクト活動のデータを処理し、グラフや表を作成して卒業論文に活用する。プレゼンテーションを活用し、プロジェクト学習の発表準備を行う。	・演習(座学) ・中間発表	学期末考査
1 2 3	農業情報及び 環境情報の活用 農業学習と情報活用	専攻学習と連携し、プロジェクト活動のデータ処理とプレゼンテーションソフトを用いた発表準備を行う。	・演習 ・発表会	学年末考査

3. 評価の観点と方法【 】は評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、出席状況】	農業情報に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に農業情報に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【考査、レポート、授業態度】	農業情報の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け情報処理に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【授業態度・発表】	農業情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け情報処理の意義や役割を理解している。 【考査、レポート】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)		20	10	30	60	学習到達度の確認
提出物等		5		5	10	予習・復習の確認
授業態度・発表	5	5	5	5	20	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「畜産」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農 業	単位数	8 単位	学年・学科	3 学年 畜産科学科
使用教科書	畜産（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	乳用牛・肉用牛の施設から経営や牛の生理生態や特徴を学ぶ
学習の到達目標	牛の特性や飼養管理、環境等について、基礎・基本をもとに経営技術を培う。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	命を大切にすることを養い、学ぶ姿勢を持つ。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	プロジェクト学習計画・立案	研究テーマの決定・計画	・実習観察	学期末考査
5	泌乳の仕組み、飼料給与計算	泌乳の仕組み、飼料について理解する	・実習観察	
6	繁殖生理と人工授精技術	繁殖生理について理解する	・実習観察	
7	肥育牛の生産生理と特徴	肥育牛の生理、飼育について理解する	・実習観察	
9	飼料の配合	飼料の配合について理解する	プロジェクト中間発表会	中間考査
10	牛舎の構造、病気と衛生	牛舎の構造、病気について理解する	・実習観察	
11	畜産における新技術	胚移植等の新技術について理解する	・実習観察	学期末考査
12	牛乳の生産と流通	牛乳の流通、加工について理解する	プロジェクト発表会	
1	1年間のまとめ	卒業論文のまとめ	卒業論文	学年末考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
牛の特性や生産性の向上に関心を持ち、実習やプロジェクトに対して意欲を持ち積極的に参加し牛について理解を深める。 【授業態度、出席状況】	プロジェクト学習における課題解決のための思考・判断力を高める。 【考査、レポート、授業態度】	去勢、除角、発情観察、人工授精適期の判断等について理解し、実践できる。 【授業態度・発表】	牛の特性に関する基礎的・基本的な知識を習得し、産業としての価値を理解する。 【考査、レポート】

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)	10	10		30	50	学習到達度の確認
提出物等	5	5		5	15	予習・復習の確認
授業態度・発表	5	5			10	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
プロジェクト学習	10	5			15	目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「農業経営」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校生徒用

教科	農業経営	単位数	2単位	学年・学科	3学年・畜産科学科
使用教科書	農業経営（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の持つ多面的機能や、世界の食糧事情を視野に入れたグローバルな視点で考える事を学ばせる。
学習の到達目標	農業経営の設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、コスト管理とマーケティングの必要性を理解させるとともに、経営管理の改善を図る能力と態度を育てる。
取得できる資格	
授業を受ける心構え	今の日本の農業経営と世界情勢について真剣に考えさせる。

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	農業の動向と農業経営 農業経営の組織と運営 農業経営と情報 農業経営の会計	食料の世界的動向とともに、環境問題や消費の安全問題とのかかわりを理解させる。	一斉授業 (座学)	中間考査 期末考査
9 10 11 12	農業簿記 農業経営の診断と設計	農業経営の改善を行うために簿記の必要性を理解させる。 取引の記帳から決算までの複式簿記の仕組みを理解させる。	農業簿記の演習	中間考査 期末考査
1 2 3	経営診断	経営診断の目的と手段について基礎を理解させる。	一斉授業 (座学)	学年末考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
経営の設計や管理に興味関心を持ち、コスト管理やマーケティングの経営改善の探究に取り組み、課題を解決することができたか。 【授業態度、出席状況】	農業管理の改善を目指し、基本的な知識を活用するなどして課題を適切に判断することができたか。 【考査、レポート、授業態度】	農業経営の各分野に関する基本的な技術を身につけ、農業簿記に関する諸活動を合理的に実施できているか。 【レポート、発表】	農業経営の設計と管理に必要な基本的な知識や農業簿記に関する知識を理解して学習できているか。 【テスト、レポート】

4 規準

評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)	10	10	10	30	60	学習到達度の確認
提出物等	5		5	5	15	予習・復習の確認
授業態度・発表	5	5		5	15	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
合計	30	15	15	40	100	目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「農業機械」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科	農業機械	単位数	2単位	学科・学年	農業科・園芸科・畜産科学科3年
使用教科書	農業機械（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	①農業機械の取扱いと維持管理に必要な知識と技術を理解する。 ②機械の構造と作業上の特性を理解する。 ③農業機械の効率的な利用を図る能力と態度を育てる。
学習の到達目標	農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、農業の社会的な意義や役割を理解するとともに農業に関する諸課題を主体的、合理的に解決し、農業の充実と社会の発展を図る創造的、実践的な能力と態度を養う。
取得できる資格	特記なし
授業を受ける心構え	農業機械を知り、機械を安全かつ大切に使用する心を持たせる

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	・農業機械の役割 原動機 1 内燃機関 2 電動機	農業機械化の意義を理解する。 農業機械の利用とその現状を理解する。農業生産に関わるエネルギーの種類と動力源を理解する。 エンジンの作動原理・構造を理解する。	農業機械利用の多様化と重要性 エンジン の作動原理 吸気・圧縮・ 膨張・排気行程	中間考査 期末考査
9 10 11 12	トラクタの構造と整備 農業機械の操作	トラクタの種類、構造および機能を理解する。 トラクタの性能と歩行用トラクタの構造と整備を理解する。	トラクタの基本的運転操作	中間考査 期末考査
1 2 3	作業機とその操作	牽引・耕うん・整地用機械	牽引運転 プ ラウ ロータ リー	学年末考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は方法	思考・判断・表現 【 】は方法	技能 【 】は方法	知識・理解 【 】は方法	備考
農業機械について理解し、それぞれの内容について、興味・関心を持って意欲的に取り組める。 【態度・服装・出欠状況】	演習をとおして、様々な問題に直面した場合、自ら考え判断し、表現することができる。 【態度・プリント】	農業機械の手順をしつかりと学び、指示した内容が的確に行い、実際に安全に操作することが出来る。 【プリント】	農業機械の各分野の特性について学び、操作手順等を体系的に学び、理解している。 【プリント】	

4 規準

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	項目間の比率（%）	その他
評価項目						
定期考査・平常考査	15	15		30	60	学習度の確認
提出物等	5	15		5	15	予習・復習の確認
授業態度・発表・実技	5	5	5	5	20	取り組む姿勢
出席状況	5				5	欠席理由の明確化
競技会・資格取得						目標到達度評価
					100%	

科目「食品製造」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農 業	単位数	2 単位	学年・学科	3 学年 畜産科学科
使用教科書	食品製造（実教出版）				
副教材等	ファイル、授業プリント				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	食品製造の意義や基礎・加工実習
学習の到達目標	食品製造の知識や技術を習得する
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	食品製造について興味関心を持って臨み、併せて衛生管理を徹底し食中毒予防に努める

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	食品製造の意義と動向	・ 食品製造の目的や必要性について知る	・ 一斉授業(座学)	中間考査
5	食品製造の基礎	・ 様々な食品の加工と実際について知る	・ 実習・観察	
6	食品の変質と貯蔵法	・ 変質原理や貯蔵について理解する		
7	牛乳の加工	・ ヨーグルトの加工工程と原理について理解する		学期末考査
9	食品の包装と表示	・ 包装の目的とその意義について理解する	・ 一斉授業(座学)	中間考査
10	食品加工と食品衛生	・ 食品衛生の重要性について理解する	・ 実習・観察	
11	卵の加工	・ プリン・マヨネーズの加工工程と原理について理解する		
12	肉類の加工	・ ハム・ベーコンの加工工程について理解する		学期末考査
1	年間のまとめ	・ まとめ	・ 一斉授業(座学)	学年末考査
2			・ 実習・観察	
3				

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
食品製造について興味関心を持ち、学習や実習体験に取り組んでいるか。 【授業態度、出席状況】	科学的な視点で捉え、内容について理解し適切な判断ができるか。また実習結果について考察できるか。 【考査、レポート、授業態度】	食品衛生を徹底し、加工環境や加工器具の取扱いについて習得する。また加工原理を理解し表現することができたか。 【授業態度・発表】	単元の目標を理解し、食品製造の基礎的・基本的な知識を身に付け、加工原理を理解することができたか。 【考査、レポート】

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)	1 5	1 5	1 0	2 0	6 0	学習到達度の確認
提出物等	1 0				1 0	予習・復習の確認
授業態度・発表	5	5	5	5	2 0	取り組む姿勢
出席状況	1 0				1 0	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					1 0 0 %	

科目「生物活用」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校生徒用

教 科	農 業	単位数	2 単位	学年・学科	畜産科学科 3 学年
使用教科書	生物活用（実教）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	動物を用いて人の心を癒す
学習の到達目標	健康上の効果及びアニマルセラピーの特性の理解
取得できる資格	なし
授業を受ける心構え	イヌ、ネコ、ウマ等各種動物の特性を理解する

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	セラピーとは 教育ファーム活動 イヌ・ネコの飼育と管理 乗馬療法について	アニマルセラピーの意義について理解する 動物介在教育の効果	・一斉授業 ・調べ学習	中間考査 期末考査
9 10 11 12	教育ファーム活動 成果発表	動物介在教育の実践 動物の生態や特徴について調べ学習を行い、紙芝居で発表し、その成果を卒論にまとめる。	・教育ファーム実践 ・調べ学習 ・学習発表会	中間考査 期末考査
1	アニマルセラピーのまとめ	年間のまとめ	・卒論のまとめ	学年末考査

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	各種動物の特性に関する基礎的・基本的な知識をもとに、活用方法や介在活動について理解できる。 調べ学習の目的に応じた資料を適切に判断し、活用できる。	学ぶ目的と学び方及び学習分野について考察できる。	各種動物の特性や生態・習性に関心を持ち、調べ学習に対して、意欲を持ち積極的に参加し動物全般について理解できる。
評価の方法・割合	【考査、レポート、授業態度】	【考査、レポート、授業態度、発表】	【授業態度、出席状況】
	4 割	3 割	3 割

科目「動物産業Ⅰ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農業	単位数	8単位	学年・学科	3学年 畜産科学科
使用教科書	畜産（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	プロジェクト学習を主体とし、自発的に学ぶ態度と創造工夫の力を育てる
学習の到達目標	家きん及び伴侶動物の特性・習性・飼養管理に関する知識を得る
取得可能な資格	愛玩動物飼養管理士2級
授業を受ける心構え	必ず実習服を準備し、積極的に活動する

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	プロジェクト学習の意義	プロジェクト学習を理解しテーマを設定する	・一斉授業(座学)	中間考査
5	犬の飼養管理	犬の特性・繁殖を理解する	・プロジェクト学習	
6	犬の飼養管理	犬の品種や活用、しつけを理解する	および実習	
7	鶏の飼養管理	幼びなの管理について理解する		
9	鶏の飼養管理	中・大びなの管理について理解する	・プロジェクト学習	中間考査
10	鶏の飼養管理	繁殖と育成について理解する	および実習	
11	鶏の飼養管理	産卵とふ化について理解する	・プロジェクト	
12	1年間のまとめ	プロジェクト学習の成果をまとめる	中間発表	
1	まとめ及び発表	プレゼンテーションソフトを用いて発表する	・プロジェクト学習	学年末考査
2			および実習 ・プロジェクト発表	

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
家きんおよび伴侶動物の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、それらに関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【考査、学習ノート、問題演習】	家きんおよび伴侶動物に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、動物に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【考査、レポート、授業態度】	家きんおよび伴侶動物に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【個人ワーク、ペアワーク（共同作業）】

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
定期考査(平常)	30	5		35	学習到達度の確認
提出物・課題		10	10	20	予習・復習の確認
授業態度・発表		5	10	15	取り組む姿勢
出席状況			10	10	授業参加意欲
プロジェクト学習	10	10		20	目標到達度評価(+α)
				100%	

科目「動物産業Ⅱ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農 業	単位数	8 単位	学年・学科	3 学年 畜産科学科
使用教科書	畜産（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	豚・野生動物の施設から経営、特徴等を学ぶ
学習の到達目標	豚・野生動物の課題を見つけ、解決していく能力を育み、経営的感覚を培う
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	命に携わっている自覚と責任、学ぶ姿勢を持つ

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	豚の病気と予防衛生	・豚の病気とその原因について理解する	・実習・観察	中間考査 期末考査
5	豚の消化吸收	・豚の消化吸收について理解する		
6	家畜と飼料	・飼料の特性を知り、飼料設計ができる		
7	養豚の経営	・養豚の経営形態について理解する		
9	家畜の生理・生態と飼育環境	・豚の生理・生態を理解したうえで飼育環境を整えることができる	・実習・観察	中間考査 期末考査
10				
11	家畜排泄物の処理と利用	・家畜排泄物が環境へ与える影響について理解する		
12	豚の加工	・豚の加工技術について理解する		
1	年間のまとめ	・まとめ	・実習・観察	学年末考査 卒業論文
2				
3				

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
これまで学習した知識と経験を活かし、本校経営の問題点を考察することができる。また改善法を模索することができる。 【授業態度、出席状】	経営における課題を自ら発見し、その解決策を実行することができる。 【発表準備、レポート、授業態度】	調べ学習の目的に応じた資料を適切に判断して活用できる。 【授業態度、発表】	ブタの特性・習性を理解し、よりよい飼育環境や飼料計画を立てることができる。 【レポート、実習への取り組み】

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)	10	10		30	50	学習度の確認
提出物等		5		5	10	予習・復習の確認
授業態度・発表	5	5	5	5	20	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
プロジェクト学習		5	5		10	まとめと発表内容
					100%	

科目「動物産業Ⅲ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校

生徒用

教科	農 業	単位数	8 単位	学科・学年	畜産科学科 3 学年
使用教科書	生物活用（実教）				
副教材等	馬学（上）（下）・畜産（実教）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	馬と触れ合いながら、知識・技術を身につける
学習の到達目標	馬の生理・生態についての正しい知識・技術の習得
取得できる資格	なし
授業を受ける心構え	馬の特徴を理解する

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	乗馬と馬の習性	馬の習性を理解させる	授業(座学)	
5	馬体の構造	馬の体型を理解させる		
6	馬体の構造と機能	馬の特徴を理解させる	乗馬訓練	
7		馬の運動生理を理解させる		学期末考査
9	馬体の繁殖生理	馬の繁殖方法を理解させる	授業(座学)	
10	馬の調教と乗馬	馬の調教技術を理解させる	実習	中間考査
11	馬の飼養	馬の飼養方法を理解させる		
12	馬の病気	馬の伝染病等を理解させる		学期末考査
1	まとめと卒業論文の作成	年間のまとめ	授業(座学)	学年末考査

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	馬の特性に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、産業としての価値を理解する。	学ぶ目的と学び方、及び学習分野について考察する。	馬の特性や生態・習性に関心を持ち、意欲的に実習にも参加する。
評価の方法・割合	【考査、レポート、授業態度】	【考査、レポート、授業態度、発表】	【授業態度、出席状況】
	4 割	3 割	3 割